

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2019年2月2日～2019年2月8日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で下落しました。カナダ5年国債利回りは低下しました。

米債利回りの低下や、カナダ銀行(中央銀行)副総裁がカナダ経済は減速圧力を受けていると発言したことなどを背景に、カナダの金利は低下しました。カナダ・ドルについては、原油価格が下落したことなどをを受けて、対円で下落しました。

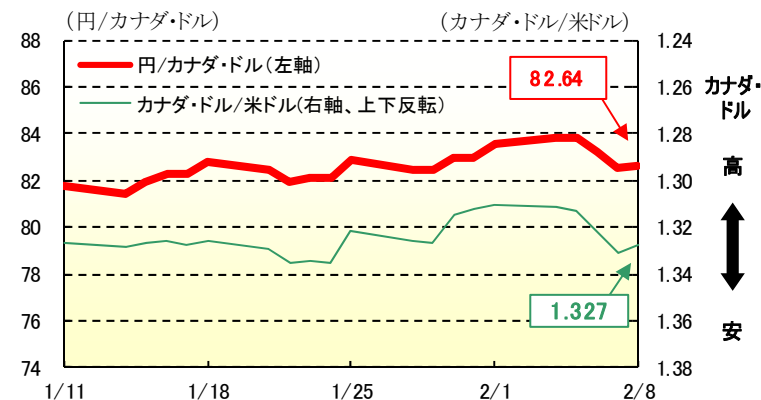
先週は雇用統計の発表があり、雇用者数は市場予想を大幅に上回る伸びとなりました。失業率は、前回から上昇したものの、労働参加率の改善が背景にあるため、悪い上昇ではないと言えます。また、住宅関連の指標が複数発表されており、予想よりも良好な結果になっています。

【2】今週の見通し

今週、カナダでは特段重要な経済指標の発表は予定されておらず、市場の注目は株価や原油価格、米国の経済指標に集まるとみえています。米国ではCPI(消費者物価指数)、小売売上高の発表が予定されており、良好な結果になれば米国金利の上昇が見込まれ、それに連れてカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力が高まるとみえています。

足元の株式市場ですが、良好な米国の雇用関連の指標を受けて、上昇基調となっており、カナダの通貨、金利を下支えすることが予想されます。

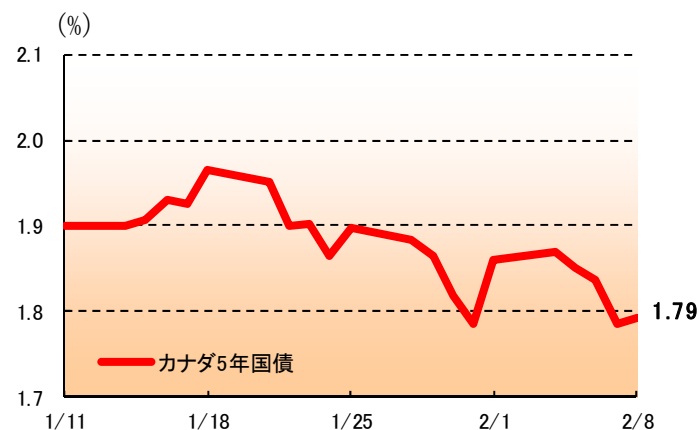
【カナダ・ドル 為替推移】 (2019年1月11日～2019年2月8日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2019年1月11日～2019年2月8日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>